茨城こども新聞 特別版

水戸市立 寿小学校

◆校　長　霜田　豊
◆児童数　610人
◆創　立　1955年
◆住　所　水戸市平須町1809の1

寿小学校の人権（じんけん）シンボルマーク

あいさつ運動

ふれあい委員会によるあいさつ運動

地域とつながり強める

「おはようございます！」。子どもたちの元気なあいさつから寿小学校の一日は始まります。ふれあい委員会の児童が横断幕を持って正門付近に立ち、毎朝あいさつ運動を行っています。

「つながりの始まりは、まずあいさつから」という考えのもと、「元気よくあいさつ」「自分からあいさつ」「その場に合ったあいさつ」をキーワードに、心を込めたあいさつを心がけています。低学年児童の中には、横断歩道を渡った後、止まってくれた車に対しておじぎをする児童がいます。中学年児童の中には、登校した後、外から１階職員室に向かい、元気よくあいさつする児童がいます。高学年児童の中には、廊下ですれちがう先生に対して、何度も立ち止まって丁寧に会釈できる児童もいます。

このあいさつの力を校外でも思いきり発揮して、地域とのつながりをもっと強めていけたらと考えています。

縦割り班活動

異なる学年の児童が集まって一緒に活動（写真は昨年度）

自分のあるべき姿学ぶ

寿小学校の縦割り班活動は「パレットタイム」といいます。一人一人の違う色が一つになるという意味です。

教室や校庭で、みんなで楽しめるものを６年生が企画して運営します。６年生は中心となり、まとめていくことで、下級生に対し年長者としてどのように接していけばよいのかを学んでいきます。逆に下級生はその姿に接し、安心できる心の居場所を得るとともに、今後の自分たちのあるべき姿を学んでいきます。年度末の活動では下級生から６年生へ手作りのプレゼントが贈られ、お互いに感謝の気持ちを伝え合います。

今はコロナ禍のために、実施困難ですが、授業では学べない大事なものを得られる「パレットタイム」を、これからも子どもたちと大切に守っていきます。

こんな学校です！

「つながり」を大切に教え合う児童たち

「つながり」で学び合う

寿小学校は、「『つなげる』『つながる』で子どもを伸ばそう」をスローガンに掲げ、学校教育活動を進めて今年で３年目となりました。

この「つなげる」「つながる」というワードは、子どもたちにしっかり浸透していて、児童が話し合ってつくる学級目標にも、この言葉が使われています。授業では、自然と教え合ったり、学び合ったりして、友達のよい考えに触れ、共働的に学ぶ姿が見られます。友達のよさに「つながり」、優しさに「つながり」、勇気に「つながり」、さらに先生とも保護者とも地域の方々とも、より強く「つながり」を持つことを目指しています。

日常的に、さまざまな場面で「つながり」を意識して日々頑張っている子どもたち。今年からは、１人１台端末という新しい道具を手に入れて、さらに「つながり」の輪を広げようとワクワクしている寿小学校のみんなです。

小中一貫教育

６月８日に実施された第１回ウェブ会議

端末使いリーダー育成

笠原小学校、笠原中学校と連携しながら、９年間の児童生徒の成長を見通したさまざまなプロジェクトを進めています。その一つにリーダーの育成があります。

コロナ禍でも活動を継続するために、タブレット端末を使い、ビデオ会議システム「Google Meet」で３校をつなぎ、各校のリーダーたちが「私たちの地域をよりよくするには」などのテーマに沿って話し合いを行いました。寿小学校のリーダーとして参加した６人が中心となり、各委員会、各学級のリーダーを集め、その思いや自分たちがすべきこと、計画について話し、広めていきます。低学年にも分かりやすく伝え、全校参画の活動を目指しています。学校間がつながる、学校内でもつながる…ウェブ会議を起点にリーダーを育成していく。そのリーダーたちが、いずれ地域のリーダーになっていく。そのようなビジョンを子どもたちと共有しながら取り組んでいきます。

次回は８月20日 下妻市立下妻中学校です